

平成20年度質の高い大学教育推進プログラム審査結果表【選定】

機 関 名	東北大学				
取 組 名 称	リサーチマインドを育む医学教育体制の構築				
取組学部等	医学部医学科				
申 請 区 分	教育課程の工夫改善を主とする取組				
整 理 番 号	A11006	申 請 の 形 態	単 独	取 組 期 間	3 年
申請の分類	専門基礎				
キーワード	学際的人材、目的意識、柔軟な思考、探求心、実践的能力				

＜選定理由＞

本取組は、リサーチマインドを持った医師・医学研究者の養成という視点から、医学部の教育課程の見直しに取り組んだプログラムとして高く評価できる。

特に、入学早期から医師・医学研究者となるための明確な自覚と倫理観の形成を促し、問題の発見・解決能力を養成するために、学生の知的発育を考慮しながら、導入教育、発展教育、実践教育と段階的に実施しようとしていることは、教育の順次性を重視する観点から非常に優れていると考えられる。

また、東北大学医学部が確たる教育の理念と教育目標を掲げ、様々なファカルティ・ディベロップメント、自己点検・評価を積極的に実施整備しながら、今後の具体的な計画を立てていることなど、取組の実現性についても高く評価できる。

ただし、リサーチマインドの育成については、大学の基礎研究者養成に傾きがちになり、医師としての人間性、倫理観、患者の気持ちを思いやる良医の育成が軽視されることも考えられる。本取組の実施に当たっては、この点に慎重に対応しつつ、着実に取組の成果を上げることが望まれる。

取組の概要【1 ページ以内】

〔背景と目標〕 東北大学は理念に「研究第一」を掲げ、「世界リーディング・ユニバーシティ」を目指し、国際的研究を推進し人類社会の発展に貢献する事を目的とする。本申請企画の目標は、医学部学生が人類の幸福へ貢献する高い志と倫理観を獲得し、且つ、真理を探究する心と実践する能力を入学早期から育む体系的・段階的カリキュラムの構築である。即ち、若い医師が技術主体の専門医に傾倒してゆく現況の中で、医学生に医療人に必要な基本的姿勢を重点的に学ばせると共に、将来の「科学立国」をになう学際的人材に育成してゆく発展的目標を持った企画である。

・本申請企画のカリキュラムで学生に習得が期待される目標は以下の5項目である。

- 1) 医学生としての明確な目的意識, 2) 医師・医学研究者としての高い倫理観, 3) 真理を求める旺盛な探究心, 4) 問題を自ら発見できる柔軟な思考, 5) 問題を解決できる実践的な能力

〔カリキュラム構成の概要〕 カリキュラムは第1から第3学年にかけて構成され、学生の知的発育を考慮しながら以下の3段階で実施される。終了後は高次医学修練やMD-PhD進学に繋がる。

- 1) 導入教育 (目標: 明確な目的意識・高い倫理観の習得, 知識と実践の関係を知る)

本学では平成18年度から全学教育科目「基礎ゼミ」が「特色GP」に採択され、第1学年前期に未知の学問への挑戦などを通し学びの転換が図られる。この後から本取組を開始し、前半に4週間で医学修練(1次)を実施し各目標の習得を図る。続けて動機付け学習を毎月定期的に開催する。医学修練(1次)は患者遺族・移植患者との討論, コミュニケーション演習, 医療施設の体験実習, 医療安全や基本的医療技術(心肺蘇生術等)の理論と実践教育, 小グループワークショップで構成される。動機付け学習では、医学研究を含めた様々な医療現場で活躍する第1人者との間で双方向授業を行い、医学を学ぶ者としての動機を強め、目的意識の高揚, 持続, 定着を図る。

- 2) 発展教育 (目標: 真理を求める探究心の獲得, 柔軟な思考能力の習得)

第2・第3学年で学生は専門的医学知識の習得と、能動的に問題を抽出し分析できる柔軟な知識の構築を求められる。ここにAdvanced Science Course (ASC)とWorkshop for Tackling Question (WTQ)を新設し、選択的で目的意識の高い学生を対象に少数グループ学習を実施する。ASCは双方向授業で先端的研究, 重要課題, 他分野との境界領域等を取り上げ, WTQでは学生がASC等で気付いた疑問をワークショップ形式で解決を目指し, 問題抽出とその分析を促す。また学生に研究室の門戸を開放し研究をより身近なものとする。教科目ではグループ指導体制と成績報告責任者制度を設け, さらに即時授業評価機器を導入し, 基礎医学の講義内容や方法の改善を図る。

- 3) 実践教育 (目標: 問題解決の実践的能力の習得)

第3学年後期, まず2週間の基礎医学チュートリアルを開講し, 各学生がWTQで抽出した課題等を参考に, 分野別の小グループで本格的研究に向けた準備学習を行う。その後, 課題の探求を目指して研究室を選択し, 解決に向けた実験やフィールド活動(基礎医学修練)を4ヶ月間実践する。修練の実施状況は臨床を含めた他分野の教員が定期的に評価する。3学年末に学生による模擬学会を開催し結果発表と評価を実施し, 高評価者には国際学会出席等の特典を与える。

〔実施体制とサポート体制〕 カリキュラム委員会が企画(P), 学科全体と医学教育推進センターで実施(D), 医学教育推進センターが内容を評価(C), 全体見直しを医学科運営委員会が行う(A)。各学生にアドバイザー教員を配置し, 更に医学修練(1次)からポートフォリオ(学習達成度記録簿)の利用を指導し, 疑問や問題抽出への活用を促す。また, これを学生同士やアドバイザー教員との間の振り返りと, 学生のメンタルヘルス・ケアに活用する。アドバイザー教員と指導教員にはポートフォリオ, コーチング, メンタル・ケアのFDを実施し, 学生の自発的学習促進と教育指導体制の整備を図る。研究室の門戸は常に開放し, 学生の研究意欲に応えられる体制とする。